

9月は「雁坂みち」から「うつくしま、ふくしま。」へ

スポーツエイド・ジャパン代表理事 舘山 誠

「いにしえより甲州と武州秩父地方を繋ぐ主要道として、かつては絹も流通されていたといわれている雁坂峠越え秩父往還道。この浪漫あふれる街道を全国の心豊かな自然派ランナーたちと一緒に走ってみたい」という思いから1996年に立ち上げたのが「雁坂峠越え秩父往還走」であります。以来、2014年まで山梨市三富地区から雁坂峠を越える本来の「雁坂みち」をコースとして大会の歴史を刻んでまいりました。が、翌2015年からその登山道の通過が不可能になり、雁坂トンネルをくぐって埼玉県側に抜け、別ルート（黒岩尾根）から雁坂峠に至るという変則的なコース設定を余儀なくされてしまいました。

そして昨年、大会当日の降雨と、例年にない9月の長雨の影響でその新たな山岳区間ルートにダメージを残してしまいました。

なお、それら箇所については3度に渡る作業で修復を終えはしましたが、今年度は大会開催を見送り、過去19回にわたって大会コースとして使用してきた登山道を労わるイベント（清掃登山）に替えさせていただいたことは周知の通りです。

さて、本題です。

本大会の再開を望んでいる多くのランナーの皆さまにはまことに申し訳ありませんが、諸事情（コースとなっている国立公園特別保護地区、第1種特別地域の通過が規制されていること、本来のコースでの大会開催が当分望めないこと、代替コース（黒岩尾根コース）が脆弱であること等）により、来年度以降も引き続き登山道を労わるイベント（来年は7月後半に開催する予定）として実施させていただくことをご了解くださいますようお願いいたします。

「雁坂の灯を消さない」ために、大会休止期間も私たちは何らかの形で「雁坂みち」と関わっていきます。そのひとつが清掃登山であり、ほかの活動も模索中です。

また、いずれ大会開催が可能になったとしても、最も雨量が多い9月は避けなければならないと考えています。

次に、新規大会の紹介です。

今、我が国で最も厳しく辛い状況下に置かれているのは、2011年の東日本大震災によって引き起こされた福島第一原子力発電所の事故の影響がまだ深く残っている福島県ではないでしょうか。

以前から、私たちができること、私たちでなければできないことで、少しでも福島県の復興の力になりたいと考えておりました。

先般、前述事故の影響がとりわけ大きい太平洋側（浜通り地方）に位置する南相馬市を訪れ、桜井市長（ランナーズ大賞を受賞されている現役ランナーでもあります）に私の思いを伝えたところ、快く受け入れていただきました。

これまで雁坂峠越え秩父往還走を開催していた時期（9月の敬老の日を含めて3連休）に

「①多くのランナーに、自らの脚で日本の原風景を残した「うつくしま、ふくしま。」の様々な魅力に触れながら豊かなときを過ごしていただくこと。また、その魅力を広く発信していただくこと。②私たち（NPO 法人スポーツエイド・ジャパン）が行うべき特定非営利活動として、原発事故による甚大な被害を被った地域の復興に貢献すること」を目的に第 1 回「うつくしま、ふくしま。」ジャーニーラン 250K/123K を開催する予定であります。

コースは福島県を形成する 3 つの地域、すなわち浜通り地方、中通り地方、会津地方をめぐるものとし、スタート地点は浜通り・南相馬市、ゴール地点は中通り・郡山市となります。

詳細については、来春発表させていただきますので、私たちが掲げる開催目的に賛同していただける方は、ぜひ本来の「うつくしま、ふくしま。」をとり戻すための一つの力になってくださいますようお願いいたします。